

光、桐ヶ原の三部落でするお祭り、小宮が方治の後藤泰雄さん方の近くにあつて、昔は旧七月二十八日の晩三部落の人々が参り、神踊やご神杖など奉納し、おとで後藤さん方の庭で盆踊をして大へん賑やかであつたが、最近はお般若心経を三巻ほどあげ、終つてお神酒も俗にいうボタモチですませております。

又霜月の二十八日には三部落まわり座で、例えび今年方治が座組なら来年は桐ヶ原、さらい年は日出光ということ、一戸一人座組の座元家へ夕飯食べに行く例になつており、これは私の生まれぬ以前から今まで続いており、珍らしいことですが、何がきっかけになつてするようになったのか知りませんが、どうも割りきれないような催しの方です。

そのほか、大師講は以前は頼母子講などあつて、極めて盛大で、東光庵も狭い位にお参りがあつたが、だんだん下火になり、二年前までは心ある人は二十日の晩には参り、ご詠歌やご和讃などあげて楽しんでたが、近ごろはめつたに参らないようになったが、又日頃の参るようにならうと思ひます。

また、各小部落（伏木川、市野々、小字山、桐ヶ原、日出光、方治、船形）いづれも小神様が祭つてあり（天神様、若宮様、ご蔭様、あたご様、稲荷さま）など、夏冬二回おまつり、但し冬は食ひまつり。

富屋神社例祭 四月二十五日 神楽、神踊、杖踊奉納
（十一月二十五日神楽だけ）

馬嶺神社例祭 一月十九日 六月十九日

各小部落毎に電話で聞き合はせ左へ大略右の通りと思ひます。又他のことあかり次第ご報告いたします。（以上）

調査

佐伯地方の民俗行事

佐伯市史蹟さん委員
佐伯史談会々員

岩 田 善 市

先般、佐伯地方の民俗行事について、佐伯市南海部郡全地域にあつて調査したので、その存続分布の状況をとりまとめて御報告したい。幸い佐伯史談会の会員が各地におつたので大半はその会員の、会員のない地区は落枝の先生方にお願ひしたところ、五十三通出して五十通の御回答という御協力を頂けて、ありがたく思つた。その結果をとりまとめて御報告申したい。

一、盆行事の精霊棚について

イ、精霊棚を各家に設けてまつる 十三か所（二六%）
ロ、まちまちである 八か所（一六%）
ハ、殆んど設けていない 二十九か所（五八%）

精霊棚は主として禅宗の檀信徒で、仏壇以外に座敷の軒下等に設ける施餓鬼棚のことで、仏の供養に飢餓に苦しむ亡者や餓鬼に飲食を施す法会を行ふ場所である。供えものは、水、水の花（ナスビのサイの目切りに小魚、米杓を混ぜ合せたもの）その他季節のイモ、トウモロコシ、クリ、カキ等を供えて水まつりする。

このまつりは、檀信徒としての宗派にもよるが、イの回答十三か所の内、農村部五か所、海岸部が八か所となつている。ロの内農村部四か所、海岸部四か所で海岸部の多いのは、信仰心の厚薄によるのか、習慣、人情性にあるのか、一つの問題

である。筆者の子供の頃、はとんど各家庭ごとに見かけ左水まつりであるが、歳後只待に少なくなつた行事で、考へさせらる事である。

二、精霊流しについて

- (1) 精霊流しは殆んどの家がする。 十五か所 (三三)
- (2) 新仏の家がする。 八か所 (二六)

盆の十五日の夜更けから十六日の夜明けにかけてする。

(3) はとんどしてない。 二十七か所 (三三)

精霊舟を造り、仏の供えもの、果物、ボタモチ、そうめん等を積み、川や海に流して精霊塚をお送りする行事である。ゆの十五か所の内農村部が二か所、海岸部が十二か所、市街地一か所となっている。川や海がなければ出来ぬ行事であるから、流すに便利のよい海岸に行われるのはうなずける。

送り火に送られた精霊舟が、西方北の帆をあげて、ローソク之光美しく、水面を照らしながら流れゆくさまを、いつまでも見送る時、現実の亡き人を見送る感かして、「来年の盆には来なさいよ、待っています」との声も聞かれ、何かしらなごり惜しい、なつかしい風景である。

三、盆踊りについて

(1) 新仏のたぬ供養踊りをいつするか、主催者は?

- 十三日晚 一か所
- 十四日晚 十七か所
- 十五日晚 十四か所
- 十六日、又は十七日晚 三か所

以上供養踊り計三十五か所(三三)

主催は殆んど村(部落)、青年団、婦人会の共同であるいは協力でなされている。

(2) 其の他の盆踊り 六か所で行われていて、十五日、十八日、二十三日、二十四日などまちまち。主催は

青年団、婦人会の共同又は協力で。

盆踊りを行っている部落は、合計四十二か所、特に海岸部の村は全部行っている。

日時については、十三日の晩から二十四日の晩まで行われ、盆踊りだけは伝統を受けついでいる。

四、お日待について

お日待は、太陽信仰の一行事で、正月十四日と十五日十四日に講員が集って、御神酒を供え会食をする。其の夜は徹夜で、夜明けのお日を拝んで帰る。この行事が、東部にある浦々で行われるのは、意味があると思われる。

五、庚申待について

庚申待をしていいる。 十三か所 (三三)

(農材部 十か所 海岸部 三か所)

いたる所に庚申燈がある割に、庚申祭を今もつづけている所は意外と少なく、しかも海岸部は少なく農材部に多いのは、農作の神として崇められているせいである。

六、二十三夜待について

陰暦二十三夜の月待ちで、目を拝んで帰る。 四か所 (三三)

七、講について

(1) お伊勢講をしていいる 一か所

(2) お大師講をしていいる 二十六か所 (三三)

講の中ではお大師講が最も多く、地域を全域に亘って行われている。弘法大師の信仰は、宗旨を問わぬ大衆の中にとけこんで生きつづけている。

八、地蔵講について

地蔵講をしていいる 八か所 (三三)

九、農材部について

農材部 六か所、海岸部二か所、 十か所 (三三)

十、観音講について

観音講をしていいる

(六) お山講をして
報恩講をしている

九か所 (二八%)
六か所 (二二%)

八、祭について

(一) 漁祭 (漁村での魚鱗供養等)

(四) 山神祭

五か所 (二〇%)
十四か所 (三八%)

(農村部 八か所 海岸部 六か所)

農村部に多いのは、農耕生活と山とは非常に関係が深いからであるが、海岸部六か所は何に原因するか。多分他業の人達が、木炭製造やシイタケ製造など山に關係の仕事をするためではあるまいか。

(二) 水神祭

十一か所 (三三%)

(農村部 六か所 海岸部 五か所)

農村では灌漑に關係深く、海岸部は飲料水に關係が深い。日向泊では「神の井」の水神祭をしているのも面白い。

(三) 川祭

五か所 (一四%)

水神祭と性格は同じと思われるが、洪水も關係あると見えて、弥生野谷口・赤木、木匠村三股・井ノ上と、番匠川流域の村で行われている。

(四) 村祈禱

十四か所 (三六%)

(農村部 十か所 海岸部 四か所)

(五) 金毘羅祭

十四か所 (三六%)

(農村部 十か所 海岸部 四か所)

金毘羅信仰は、海神として海上安全を祈る為に、海岸部に關係が深いと思つていたら、意外と農村部に多い。湖邊の神として信仰されているからだろうか。

(六) 祖母藏神祭

二か所

(農村部、木文と細田二か所に行われている)

九、芝居 (村芝居の世業)

(一) 時々ある (四等五、通の中催ひに)

一か所

(二) 岩戸神楽 毎年ある

五か所 (一三%)

時々ある

十三か所

一、猶の子祝 (子供行事)

六か所

(農村部一か所 海岸部五か所)

大正時代までは盛んに行われたが、昭和になつては見られなくなつた。

二、正月のひとんど焼き

六か所 (二二%)

全部海岸部で行われている。正月十五日(小正月)に行つた火祭りであるのに、どうして農村で行われないのであろうか。

三、旗の遊芸人

時々来る 僅かに一か所

かんじん (物質い) 時々来る 四か所

娯楽施設 (テレビ等) が完備し、厚生施設が出来、生活環境がよがつて来れば、自然になくなるものであろう。

三、村の特別な民俗行事

下堅田西野の子供組、本匠村井ノ上の官女流
し、三股の明月といふぬす又、宮の浦などの
正月二日の魚船乗り初め、木南鉦山の墨つけ
祭などがある。
(おわり)

大分県文化財専門委員 沢 矢多喜男先生著
大分県立樟葉高校教頭

日本民俗 44

大分

昭和四十八年四月三十日 発行
B6判 八二八頁 定価 八〇〇円

柴矢先生は佐伯に於て度々お出でになり、佐伯神楽、瓦
杖踊、千束祭、山戸神楽など実地について採録調査され
又、地名の研究、其山村漁村の年中行事など民俗且習を
丹念に研究され、その全果的なるまことか、新著です。
会員の座におすすめたい、本会取次、電話中へ。